

「日本と如何に仕事をするか」 ボアジチ大学一般公開セミナー

所司・エルドアン 真理子

一. はじめに

ボアジチ大学文理学部歴史学科と、ボアジチ大学語学実用及び調査センターの協同で、94年6月から、一般成人向け公開セミナーが始まった。これは、アメリカでは、各地で普及していると言われる、「日本的ビジネスについて説き明かすセミナー」を、トルコとトルコ社会、トルコ人ビジネスマン向けに工夫したものである。このようなセミナーは、トルコ社会に於いて、かつてなかったものであり、又、現在も当ボアジチ大学の、このセミナーのみと言っても、過言ではないだろう。

二. 内容

(1)対象者

学生を除く、このセミナーに興味がある一般成人なら誰でも可。定員は15人。

(2)期間

春、夏、秋（主に3月、6月、10月）に1回ずつ。1回のセミナーは二週末。すなわち、金、土、日曜日、それぞれ2回ずつ、計6日間。午前9：30～午後5：30。途中、コーヒー・ブレイク2回と、昼食休憩あり。

(3)費用

450アメリカ・ドル（昼食・茶菓代込）

(4)セミナーの演題

- ①今日の日本について、一般的な俯瞰（特に歴史と文化）
- ②社会的機構
- ③日本の会社の経営方針、方法
- ④日本の会社の機構と決断方法
- ⑤日本の政治と経済
- ⑥日本社会の人間関係、習慣、伝統
- ⑦日本の会社の国際的市場に於ける働き
- ⑧日土経済委員会の動向
- ⑨JETRO、JICAについて
- ⑩日本の日常生活—電話のかけ方、地下鉄の乗り方
- ⑪日本的議論—会議の方法

⑫日本のビジネス社会に於けるトルコのイメージ⑬日本のテクノロジー
⑭職場の日本語⑮質疑応答

①、②、⑤、⑫は、歴史学科長セルチュク・エセンベル助教授が担当。

③、④、⑦、⑪は、トルコ人ビジネスマンであり、経営学科の授業にも参画するイエネル・ソヌシェン氏が担当。

⑥、⑩、⑭は、歴史学科日本語講師真理子・エルドアンが担当している。

又、⑧と⑨については、DEIK（国際経済関係機構）グループから、ゲストスピーカーをよび、説明してもらっている。

⑮質疑応答は、講師全員で応えるが、「日本の企業経営」、「日本のビジネスマン」、「日本の家庭生活」のような、ビデオカセットも活用し、視覚にも訴えるようにしている。

三. 成果

(1)日本出張の前研修

94年6月、95年3・4月、95年6月と、延べ3回、延べ14人に講習してきた。が、中には、社用で日本に行くことになっていたため、「前研修が出来、日本での滞在が有意義かつ、円滑になった」という感想を、後々述べてくれた者がいた。

(2)仕事上の夢が現実

94年6月に施行された第1回目のセミナーの折、イズミール市から泊まり込みで、参加したナツ（落花生、ヘーゼル・ナツ、ピスタチオ・ナツ等）業者がいた。彼は、過去3年、ファックスを打ち続け、日本各地の同業者と連絡を取ろうとしたが、失敗に終わっていた。が、このセミナーで知り合った、DEIK（国際経済関係機構）グループの日本担当者との縁で、とうとう「日本にトルコのナツを輸出する」という念願を果たせた。

(3)日本語学習者の獲得

セミナー演題中、⑭職場の日本語は、つまり「ビジネス・ジャパニーズ」である。とは言え、毎日1時間半、6日間。計9時間半の学習時間では、「あいうえお」、「あいさつ用語」、自己紹介、基本的な教、基本的な動詞…程しか、教えることはできない。

ところが、参加者たちは、思いの他、興味を示してくれ、以後も日本語学習を続行したいと希望する者が出た。

又、「日本語表記一文字の種類」にも、触れた折、ひらがな、カタカナよりも漢字に関心を持ち、又習いたいと言った者がいたのには、講師一同、驚くと共に喜んだものである。

四. 今後の方向

始まって、まだ1年半にも満たないセミナーであり、終了者も14人と多くはないが、現場のエキスパートたちに、「日本ビジネスの全て」を伝授する、このセミナーが、徐々にでも、トルコビジネス社会に浸透してゆけば、近い将来、日土関係にも、寄与するものと思われる。

又、日本語教育の一分野である「日本事情」の、一方向を示唆すると思えば、「継続は力なり」…学内だけではなく、学外に対する教育にも力を入れようと思う、今日此頃である。

ボアジチ大学文理学部歴史学科日本語専任講師